

献詠入選歌（一般の部）

一位 ひとすぢに胃のなき腹に落ちてゆく両手に掬ふ富士の傷き水

静岡県静岡市 今井 克己

二位 鍵のいらぬネパールの村から嫁ぎ来てマンションのドアの冷たさを言う

横浜市旭区 水谷 真知子

三位 指の名をおしえつつきる小さき爪朝日子ひかる春の縁光

小田原市 川口 克子

四位 温き場所花に譲りて老いふたり少し遅めの昼飯を食ふ

茅ヶ崎市 綿貫 悦子

五位 キッチンにまこと小さき蟻出でてもどもどもと春をはこべる

横浜市南区 川井 怜子

六位 色香には無縁のくらし頬被りして若菜摘む正月七日

愛知県東海市 斎藤 浩美

献詠入選歌（小・中学生の部）

一位 母よりも身長高くなったねと言われるたびに何だか寂しい

名取市立第二中学校 鈴木 菜仁

二位 初日の出見ようと早起きしたはずが沈みゆく月のでかさにみどれた

大磯町立大磯中学校 芝崎 颯

三位 きみの声聞いてるだけでしあわせだこんな感情きつと初めて

名取市立第二中学校 荒川 茉莉亜

四位 たのしみは 本の世界へまぎれこみ ページの次へ 旅してる時

大磯町立大磯小学校 内山 百華

五位 降る雪に白く染まったアスファルト誰かの足跡追いかけてみる

名取市立第二中学校 高橋 さやか

六位 節分の鬼が出ていく部屋の中少しさみしく豆だけ残る

恵那市立串原小学校 平林 萼花